

名前

日付

得点

1 / 2

1 「情けは人のためならず」を正しく使っている文は？

答え

1. 甘やかすのは情けは人のためならずだから、厳しく接する。
2. 手伝ったら、後で助けてもらえた。情けは人のためならずだ。
3. 情けは人のためならずなので、手を貸さないでおく。
4. 情けは人のためならずというから、同情はしない。

2 「他山の石」を正しく使っている文は？

答え

1. 先輩の成功を他山の石として見習いたい。
2. あの人の失敗を他山の石として、気を引きしめる。
3. 他山の石のような立派な手本だ。
4. 他山の石だから、私には関係ない。

3 「役不足」を正しく使っている文は？

答え

1. 私には役不足ですが、精一杯努めます。
2. 彼にこの程度の仕事は役不足だ。もっと難しい任務を与えよう。
3. 力が足りず役不足で申し訳ない。
4. 経験が浅く役不足です。

4 「枯れ木も山のにぎわい」を正しく使っている文は？

答え

1. あなたが来てくれて枯れ木も山のにぎわいです。
2. 枯れ木も山のにぎわいですが、私も参加させてください。
3. 有名人が加わり枯れ木も山のにぎわいだ。
4. 彼のおかげで枯れ木も山のにぎわいとなった。

5 「流れに棹さす」を正しく使っている文は？

答え

1. みんなの意見に流れに棹さして反対した。
2. 好調な流れに棹さして、一気に決着をつけた。
3. 時代の流れに棹さして抵抗する。
4. 流れに棹さすように、一人だけ違う道を選んだ。

6 「急がば回れ」を正しく使っている文は？

答え

1. 締め切りが近いので急がば回れで走った。
2. 遠回りでも確実な方法を選んだ。急がば回れだ。
3. 急がば回れというから、先に手をつけた。
4. 時間がないので急がば回れで省略した。

7 「情けをかける」ではなく「厳しく育てる」ことを表す使い方は？

答え

1. かわいい子には旅をさせよで、何でも買い与えた。
2. かわいい子には旅をさせよと、あえて一人で行かせた。
3. かわいい子には旅をさせよだから、そばで見守る。
4. かわいい子には旅をさせよで、旅行に連れて行った。

8 「馬子にも衣装」を正しく使っている文は？

答え

1. 社長は馬子にも衣装で、いつも立派だ。
2. 弟も制服を着ると立派に見える。馬子にも衣装だ。
3. 高価な服を買った。馬子にも衣装である。
4. 先生は馬子にも衣装ですね。

9 「二の足を踏む」を正しく使っている文は？

答え

1. 階段で二の足を踏んで転んだ。
2. 値段が高くて、購入に二の足を踏んでいる。
3. 二の足を踏んで走り出した。
4. リズムに合わせて二の足を踏む。

10 「石の上にも三年」を正しく使っている文は？

答え

1. 石の上にも三年だから、すぐに結果が出る。
2. 苦しくても続けよう。石の上にも三年という。
3. 三年たったので石の上にも三年だ。
4. 石の上にも三年で、三年で辞めた。

名前 _____

日付 _____

得点 _____

2 / 2

11 「灯台もと暗し」を正しく使っている文は？

答え

1. 灯台の下は本当に暗い。
2. 探し物が自分の机にあった。灯台もと暗しだ。
3. 灯台もと暗しで、遠くまで探しに行った。
4. 夜道は灯台もと暗しで危ない。

12 「立つ鳥あとを濁さず」を正しく使っている文は？

答え

1. 鳥が飛び立って水が濁った。
2. 退職前に引き継ぎを済ませた。立つ鳥あとを濁さずだ。
3. 立つ鳥あとを濁さずで、静かに立ち去った。
4. 水をきれいにして立つ鳥あとを濁さずとした。

13 「能ある鷹は爪を隠す」を正しく使っている文は？

答え

1. 能ある鷹は爪を隠すので、実力を隠して怠けた。
2. 彼は普段目立たないが、実は名手だ。能ある鷹は爪を隠すだ。
3. 能ある鷹は爪を隠すから、自慢してよい。
4. 鷹は爪を隠す習性がある。

14 「弘法にも筆の誤り」を正しく使っている文は？

答え

1. 初心者だから弘法にも筆の誤りだ。
2. あの名人が書き損じた。弘法にも筆の誤りだ。
3. 弘法にも筆の誤りで、筆を選び直した。
4. 私の失敗は弘法にも筆の誤りです。

15 「ぬれ手で粟」を正しく使っている文は？

答え

1. 苦労して稼いだ。ぬれ手で粟だ。
2. 何もせずに大金が入った。ぬれ手で粟だ。
3. 手が濡れて粟がつかめない。
4. ぬれ手で粟のように努力した。

16 「紺屋の白袴」を正しく使っている文は？

答え

1. 紺屋は白い袴をはくものだ。
2. 大工なのに自宅は修理していない。紺屋の白袴だ。
3. 紺屋の白袴で、清潔にしている。
4. 白い服が好きな人を紺屋の白袴という。

17 「果報は寝て待て」を正しく使っている文は？

答え

1. 何もせず果報は寝て待てで過ごした。
2. できることはやった。あとは果報は寝て待てだ。
3. 果報は寝て待てで、努力をやめた。
4. 眠いので果報は寝て待てにする。

18 「三人寄れば文殊の知恵」を正しく使っている文は？

答え

1. 三人集まると意見が割れる。三人寄れば文殊の知恵だ。
2. みんなで話し合い、よい案が出た。三人寄れば文殊の知恵だ。
3. 三人までなら文殊の知恵が出る。
4. 文殊菩薩が三人いるという意味だ。

19 「井の中の蛙大海を知らず」を正しく使っている文は？

答え

1. 蛙は井戸に住むものだ。
2. 全国大会に出て、自分の未熟さを知った。井の中の蛙大海を知らずだった。
3. 井の中の蛙大海を知らずで、視野が広い。
4. 海を知らない蛙はかわいそうだ。

20 「二兎を追う者は一兎をも得ず」を正しく使っている文は？

答え

1. 二つ同時にこなして成功した。二兎を追う者は一兎をも得ずだ。
2. 両方に手を出して、どちらも中途半端に終わった。二兎を追う者は一兎をも得ずだ。
3. 二羽のうさぎを捕まえた。
4. 二兎を追う者は一兎をも得ずで、両方得られた。